

2017 年度活動報告 CJP 授業： プロジェクトワーク 話すB

高村 めぐみ（愛知大学国際コミュニケーション学部）

1. クラス概要

このクラスは、口頭で表現する作品制作を学期の課題とし、課題達成のための話し合いや作品作りを通じて、主に口頭での日本語表現力を身につけることを目標としたクラスである。また、話しことばには、場面、相手、内容によって多種多様なスタイルが存在することを知り、それを体現することにより、独話での様々な話し方を学ぶことも目的としている。使用教材は、朗読で『声に出して読みたい日本語』（草想社）、読み聞かせで『レベル別日本語多読ライブラリー』（アスク出版）と『まねして上達！にほんご音読トレーニング』（アスク出版）を一部コピー配布した。

2. 授業内容

授業は全 14 回で、毎回の授業の前半約 45 分は様々なスタイルでの独話の練習を、後半約 45 分は学期末の発表会に向けた紙芝居の制作、発表準備（学期期間中に 2 つの作品を制作）を行った。

前半は、①朗読（口慣らし）、②読み聞かせ（文字を介した特定の相手に対する独話）、③Show & Tell（物を介した多数に対する独話）、④ニュース読み（口頭での多数に対する独話）の 3 種類の話し方の違いを学んだ。

後半は、グループワークによる活動を行った。具体的な内容としては、①紙芝居の構成作成、②ストーリー作成、③絵の構想、④絵の作成、⑤発表練習を行い、最後は他クラスの学生を観客に紙芝居の発表会を行った。

3. 成果と今後の課題

今学期は 2 名の受講者がいた。2 名とも非常に意欲的で、様々なスピーチスタイルの練習を楽しげに行っていた。但し、学期終了後の授業アンケートでは、「もっと自然な会話が練習したかった」とのコメントがあった。このクラスの目標の一つが「独話スタイルの日本語を学ぶ」ことであるため、学生も独話の練習が多くなることは承知していたが、やはり教室の外に出てすぐに使える日本語の会話力を伸ばしたいという気持ちが強かったのだろう。また、絵を描く負担が大きかったかもしれない。今後、学生の様子をみながら、コース開始後にどの程度フレキシブルにシラバスを変更していくべきか、今後の大きな検討事項になると考える。